



AUE News

2014年4月1日

第 80 号

編集・発行

愛知教育大学広報チーム

TEL 0566-26-2738

FAX 0566-26-2500



目次

● 行事予定(4月1-15日)

● トピックス

- ・「発達障害のある児童・生徒への支援」講演会
- ・2013年度教員研修留学生修了証書授与式
- ・クラブ・サークル代表者セミナー・説明会
- ・愛知教員養成コンソーシアム
- ・音楽科卒業・修了演奏会
- ・知立駅前の音響装置付き信号機に本学教員がアドバイス
- ・卒業・修了式

・ 大学院修了証書授与式

・ 退職者永年勤続表彰式

・ 第4回広報セミナー

・ 第7回アカデミックカフェ特別編「松田正久学長退任記念講演会」

・ 松田学長・折出理事の退任セレモニー

● お知らせ・報告・投稿

・ 2013年度学外国人留学生卒業・修了懇談会

・ 附属高等学校グローバル語り部講演会

・ 催しもの案内

行事予定(4/1-15)

- 2日(水) 学長就任の挨拶 (13:00～ 第一会議室)
- 3日(木) 役員部局長会議 (10:00～ 第三会議室)
役員会 (役員部局長会議終了後、第三会議室)
学生支援委員会 (13:00～ 第五会議室)
教務企画委員会 (14:30～ 第三会議室)
- 4日(金) 入学式 (10:30～ 講堂)
大学院入学式 (18:30～ 第五会議室)
- 8日(火) 役員会 (13:00～ 第三会議室)
- 9日(水) 代議員会 (13:30～ 第五会議室)
教育研究評議会 (代議員会終了後、第五会議室)
- 15日(火) 役員部局長会議

トピックス

「発達障害のある児童・生徒への支援」講演会(3/15)

教育臨床総合センター講演会が、3月15日(土)午後1時30分より本学第二共通棟で開催され、講師・スタッフを含め150人余が参加しました。今年度は「発達障害のある児童・生徒への支援」をテーマに、基調講演・シンポジウムの2部構成で開催されました。

第1部は、熊本大学教育学部准教授の菊池哲平氏(臨床心理士・心理学博士)による基調講演『自閉症スペクトラム障害児の社会性発達と支援～ソーシャルブレイン研究と通常学級における実践～』で、菊池氏は、パワーポイント資料を基に分かりやすく話され、小テ





ーマの合間に熊本大学や熊本市の PR を交えるなど、ユーモラスな語り口で聴衆を魅了しました。

第2部は、祖父江典人センター長の司会の下、3人のシンポジストが登場し、本学障害児教育講座講師の飯塚一裕氏、岡崎市

立大門小学校長の武田正道氏、児童精神科をもつ共和病院の臨床心理士であり、NPO 法人アスペ・エルデの会のスタッフでもある豊田佳子氏の順に話題提供しました。

話題提供ののち、指定討論者の菊池氏は、話題提供中に記されたと思われる各シンポジストへの質問・感想をパワーポイントを通して解説を加えました。菊池氏の指定討論が終わった時点で終了予定時間の4時半となったので、シンポジストとの議論、フロアとの意見交換を含めて30分延長し、盛会のうちに講演会を終えました。

(教育臨床総合センター発達支援研究部門兼担教員 吉岡恒生)

2013年度教員研修留学生修了証書授与式(3/17)

2013年度の教員研修留学生修了証書授与式が、3月17日(月)に第三会議室で行われました。本年度の教員研修留学生7人(ミャンマー3人、ケニア1人、モンゴル1人、ラオス1人、イエメン1人)、松田正久学長はじめ、理事、国際交流センター長、同センター教員および指導教員が出席しました。松田学長から修了証書と記念品が授与され、学長告辞では留学生生活に対する労いと共に、今後の活躍へ向けての激励の言葉が贈られました。



修了生のあいさつでは、代表者のモンゴルの Enkhtaiwan Uuganchimeg(エンフタイワン ウーガンチメグ)さんが、本学の支援に対する謝辞に加えて、自身の留学生生活を振り返り、今後の活躍を誓うなど、今まで勉強してきた日本語で流暢に話していました。



2013年度は、7人の教員研修留学生が本学で学びましたが、ともに励まし合って学業に励み、また他の留学生や日本人学生、地域団体との活発な交流を通じ、大変有意義な留学生生活を送ることができたようです。

(教育創造開発機構運営課 伊藤英作)

クラブ・サークル代表者セミナー・説明会(3/17)

3月17日(月)、大学会館大集会室にて学生支援委員会主催によるクラブ・サークル代表者セミナー・説明会が開催され、本学公認の体育系(48団体52人)・文化系(36団体36人)と子どもまつりの学生団体等の2団体で計86団体に参加しました。

学生支援委員会課外活動担当の栗山和広委員(学校教育講座)のあいさつに続いて、刈谷警察署生活安全課の澤田広志氏を講師に迎え「学生の防犯関係」をテーマとして講演をしていただきました。



澤田氏は、聴講している学生を指名しながら質問を投げかけ、講演を面白く盛り上げていました。次に本学ダンス部の顧問でもある成瀬麻美助教(保健体育)が「クラブ・サークルにおけるリーダーシップとは」をテーマに、自らの学生時代からの課外活動経験を踏まえて、指導講話をしまし



た。最後に課外教育担当係から各種連絡や依頼事項を説明し、学生支援委員会課外活動担当の中野真志委員(生活科教育)が閉会のあいさつをしました。

(学生支援課課外教育担当係、 亀山 重人)

愛知教員養成コンソーシアム(3/18)

「愛知教員養成コンソーシアム連絡協議会」が3月18日(火)、本学の第五会議室で開催されました。同協議会は愛知学長懇話会の下に置かれ、愛知県内の教員養成系学部などを持つ国公立33大学で構成。外部講師を招くなどして教員養成、教員採用の動向などについて情報交換しており、今回が7回目。本学を含む県内27大学の教員、事務職員ら約70人が出席しました。



協議会会長校を代表して松田正久本学学長が「政権交代により教員養成の風向きが変わってきている面もあります。本日は3人の講師から教職大学院を含めた今後の施策、教員採用について本音のお話を伺いたと思います」とあいさつしました。

この日は文部科学省高等教育局大学振興課教員養成企画室の佐藤弘毅室長が「教員養成政策の最近の動向について」と題して講演。小中高の児童生徒数の減少推移、初任者教員の評価、国立教員養成大学・学部卒業者の教員採用の現状などを分かりやすく説明。教職大学院の取組事例、国立大学の改革プランなど教員養成の改革と充実の議論や方向性を示し、道德教育、土曜授業、グローバル人材の育成などにも触れました。



続いて愛知県教育委員会の枡内勝利教職員課主査、名古屋市教育委員会の鈴木健教職員課管理主事がそれぞれ教員採用実績、求められる学生像、来年度採用の考え方などを説明しました。

質疑では「開放制の見直しはあるのか」「道德の教科化をなぜ急ぐのか」「教員採用の長期的な動向は？」などの声が寄せられ、佐藤室長は「開放制見直しの議論にはなっていないと思う。道德の教科化は注視している段階」、枡内主査らは「採用を急激に減らすことは考えていない」と答え、約3時間の協議会を終えました。協議会後も、引き続き自由な意見交換の場として、参加者から様々な意見、質問が出され、熱のこもった有意義な議論が続きました。



音楽科卒業・修了演奏会(3/18)

2013年度の「音楽科 卒業・修了演奏会」が3月18日(火)午後4時30分から、名古屋・伏見の電気文化会館ザコンサートホールで開催されました。



音楽教育講座主催で、声楽、ピアノ、管弦、作曲の各ゼミから学部生・大学院生の成績優秀者17人が参加しました。出場者がそれぞれの研究の成果を披露すると、会場いっぱいの聴衆から、惜しめない拍手が送られました。



知立駅前の音響装置付き信号機に本学教員がアドバイス(3/20)

名鉄・知立駅前に障害者に優しい信号機が新設一。本学と知立市などが早期設置を要望していた音響装置付き信号機が3月20日(木)、同駅前に完成して利用が開始されました。愛知県警察本部の担当者らが機器を確認する際、現場にいた、目が不自由で昨年12月に着任した本学の青柳まゆみ准教授(障害児教育)からアドバイスを受ける場面がありました。



設置されたのは同駅の主改札口を出て斜め右に進んだ所にあるスクランブル信号交差点。直径10cmほどの小さなスピーカーが歩行者用信号機に計12個取り付けられ、方角によって「ピヨピヨ」「カッコー」などの異なる4種の音が鳴る仕組み。事業費は約100万円。

この日午前11時、愛知県警察本部、管轄の安城警察署、知立市の各関係者が集まり、スイッチを入れて歩行者用の音を確認。雨天でしたが、アドバイスを求められた青柳准教授は何回も交差点を歩き来して適正な音量や聞き取りにくい点などを指摘。音が流れる時間帯も准教授の要望で午前7時—午後9時に設定されました。准教授は関係者に「短期間に設置していただき、ありがとうございました。私自身が音に慣れるとともに、他の方とも相談して客観的な検証結果や提案内容をお伝えしていきたい。今後とも御協力をよろしく申し上げます」と話していました。

この信号機設置は、知立市が2012年11月に安城警察署へ要望。本学も青柳准教授をはじめ同駅を利用する市民の安全確保の観点から早期設置が望ましいと判断。2013年10月、松田正久学長が林郁夫知立市長とともに大村秀章愛知県知事に対して早期設置の予算措置を求めて要望書を手渡しました。また、愛知県警察本部に対しても要望文書を送り、関係者の理解と努力によって本年度内の設置が実現しました。知立駅は1日当たり3万人が利用するとされ、周辺は車の交通量も多く、本学学生や教職員の多くも同駅からのバス路線を利用しており、新しい信号機の稼働で、駅での乗降、繁華街の通行など歩行者にとって安全性のさらなる向上が期待されています。



(法人企画部長 中原道文)

卒業・修了式(3/24)

2013年度の卒業・修了式が3月24日(月)午前10時30分から、講堂で行われました。今年度、卒業・修了したのは、教育学部教員養成課程683人、現代学芸課程235人、特別支援教育特別専攻科29人、大学院教育学研究科108人、同教育実践研究科33人の計1,088人。

式では、学位記と修了証書の授与が行われ、各課程の卒業・修了生代表が壇上に歩み出て、松田正久学長から学位記と修了証書を受け取りました。



学長告辞で松田学長は、「4年前の入学式に、大学の学びと教養、愛知教育大学憲章と大学運営の学生の参画などのお話をしましたが、愛知教育大学で『学びがいい』『つくりがいい』を実感して巣立っていただけるかどうか、お一人お一人に直接お聞きしたいところです。さまざまな体験の中で多くの友人ができ、その意味では『つくりがいい』のある学生生活を送っていただけたのではないかと思います」



と振り返り、自らの退任にも触れ「学長として良かったことは、多くの学生の皆さんと出会えたこと。励みとなり、多くの勇気をいただきました。この場を借りてお礼申し上げます」と感謝の言葉も。さらに「皆さんは今、愛知教育大学という学び舎を離れ、社会への一步を踏み出されました。その時々で日本のこと、世界のことを『なぜ、どうして』の気持ちで振り返っていただき、長い人生を焦らずに着実に歩まれ、悔いなく送られることを祈念しています。卒業・修了、本当におめでとうございました」と祝福とエールの言葉を送りました。

これを受けて、卒業生・修了生の代表による答辞が行われました。初等教育教員養成課程の黒柳文菜さんは、「この4年間で得た経験や出会い、思い出は、これから先、困難を乗り越えたいとき、必ず背中を押してくれるでしょう。私たちはこれからそれぞれ新たな人生の第一歩を踏み出します。本学で学んだことを何一つ無駄にせず、これからも自分を磨いていけるよう努力していきます」と決意を語りました。



この後、来賓の紹介、管弦楽団の演奏、「蛍の光」斉唱が行われ、式は終了。この日は、穏やかな晴天となり、講堂前では卒業・修了生たちをクラブ・サークルの後輩たちが待ち受け、胴上げをしたり、記念撮影をするなどして、先輩たちの門出をにぎやかに祝いました。

大学院修了証書授与式(3/24)

大学院修了証書授与式が、3月24日(月)午後6時30分から第五会議室で行われました。



式には大学院の昼夜開講コース・教職大学院を修了し、昼間の修了式に出席できなかった現職の教員17人が参列。一人ひとりの名前が呼ばれ、松田学長から学位記が手渡されました。

学長告辞で松田学長は「これまで一生懸命取り組まれた皆さんの努力と自己研鑽に対し敬意を表し、衷心よりお祝いいたします」と労いの言葉を述べ、「教育をめぐるでは、いじめや教師による暴力の問題がクローズアップされた年でもありました。職場の状況を変えていくのも、皆さん一人ひとりの意識と行動にかかっています。悩み苦しんでいる仲間を一人でも多く助け、教師の素晴らしさを共に分かち合えるよう、皆さんの頑張りに期待します」と激励の言葉が贈られました。



修了生の答辞として、芸術教育専攻の吉川友行さんは「大学の先生方のご指導と職場の協力をいただきながら、研究課題を定め、修士論文を作成したことは大きな自信となり、今日の日を迎えることができました。愛知教育大学で学んだこと、研究を進めてきた内容を、これからの子どもたちの教育につなげていけるよう力を尽していきたいと思えます」、教育実践研究科の瀬上圭太さんは「今後の学校組織を推進するミドルリーダーのあり方や、資質や能力を高め

ていくことの必要性について考える機会となりました。。さまざまな方面から学校教育に対する関心は高く、私たち教員に対しての期待や要望もますます強くなっています。教育現場の抱えるさまざまな問題に対応するのに十分な専門的な知識や実践力が求められている時代において、教職大学院で学んだことの意義を理解し、教育のために精いっぱい使命をはたしていく決意があります」と力強く述べました。

退職者永年勤続表彰式(3/25)

2013年度の退職者永年勤続表彰式が3月25日(火)午前10時から第五会議室で行われました。対象者は、折出健二総務担当理事、大澤秀介教授(社会科教育)、山本敏雄教授(国語教育)、



遠西昭壽特別教授(理科教育)、宇納一公特別教授(美術教育)、合屋十四秋特別教授(保健体育)、小笠原サチ子特別教授(保健体育)、宮川秀俊教授(技術教育)、長井茂明特別教授(家政教育)の計9人。

式では、松田学長から感謝状と記念品が一人ひとりに手渡されました。松田学長は祝辞の中で、本学で勤務を始めた70年代のベトナム戦争、石油危機などの話題から始まり、80年代から90年代における教員需要の減少に

伴う本学の対応、そして、国立大学の法人化など、被表彰者と本学で過ごしてきた時代を振り返るとともに、30数年の長きにわたる功績に感謝の言葉。「健康に気を付けて、第二、第三の人生を送っていただきたい」とエールを贈りました。

引き続き、被表彰者を代表して、折出総務担当理事が、学長をはじめとする大学構成員全てに対する謝辞とともに、「これからの本学が、教科教育の在り方を含め、平和に基づき、いろいろな個性を認め合える大学として、良い方向に向かってほしい」と期待を述べ、式終了後には、講堂前で記念撮影が行われました。



(人事労務課 福祉担当係長 原田一三)

第4回広報セミナー(3/26)

第4回広報セミナーが3月26日(水)午前10時から、本部棟の第五会議室で開催されました。

同セミナーは、教職員・学生が催しなどの広報活動に役立つノウハウを学んでもらおうと、秘書広報課が企画し、年に2回ほど開催。今回は、印刷や広告を手がけるプリ・テックグループ顧問の坂上博氏を講師に招き、「気持ちに届く『広報作成のコツ』—華のある広報クリエイティブ—」をテーマに行われました。

坂上氏は、大手広告代理店で制作、企画開発を手がけ、2005年日本博覧会協会国際本部課長、そのほか企業、政党など幅広い分野での広告宣伝の経験から、伝えたい相手に、性格に情報を届けるための



広報作成のコツを、コンセプト開発から、ポスター、新聞等の表現まで、具体例を挙げて紹介し、マーケティング、コミュニケーション、クリエイティブの各段階の戦略、そのポイントを解説。

「制作時間の半分はコミュニケーションコンセプトに費やして、一番伝えたいこと、2番目、3番目は、と考え、表現にメリハリを付ける」など、広報のコツを伝授しました。

教職員、学生ら26人が参加し、熱心に聴講。質疑応答では「コンセプトからクリエイティブにか



かる時間はどのぐらいか」「学生に伝えたいことを張り紙してもなかなか伝わらないで、困っている。伝えるコツは何か」などの質問が寄せられ、坂上氏は「言いたいことを、遠くからでも目立つように、メリハリを付けてパワフルに表現すれば、心に訴える」などとアドバイスしました。

最後に、総務担当の折出健二理事が「広報には、雑学的な興味の蓄積が必要なのを確認できた。本学でも広報に華があるように、今日のセミナーを今後の展開に生かしていきたい」と感想を述べて、セミナーを締めくくりました。

第7回アカデミックカフェ特別編「松田正久学長退任記念別講演会」(3/28)

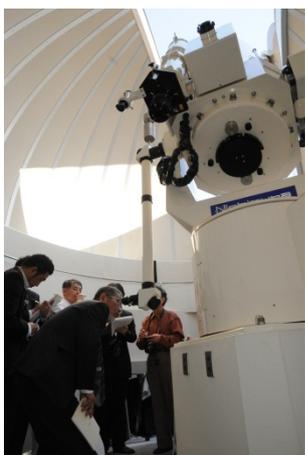
教職員・一般に向けた講演会「第7回アカデミックカフェ」の特別編として、この3月に退任する松田正久学長の特別講演会が3月28日(金)午後3時半から、本部棟の第五会議室で開催され、学生、教職員、一般市民など約100人が詰め掛けました。

松田学長は「物理学徒として歩んだ道、今、未来に伝えたいこと」をテーマに、出身地の島根県について、学生時代に物理学を学んだ経緯や恩師・友人との出会い、オーストラリアやスウェーデンでの研究などを振り返り、当時の写真を見せながらユーモアたっぷりに紹介。また、「日本は時代の転換期にあって、教育のシステムを変えなくてはならない」とも。入学式や卒業式の学長告辞で訴えてきた「なぜ、



どうして」と問うことや教養の大切さ、「一人ひとりの人間の尊厳が保障される社会であるべき」「もっと世界を見て、自分の力で考えることが大切」などと次世代へのメッセージを熱く語りました。愛教大での37年間を振り返り、「多くの皆さん、特に学生の皆さんに励ましをもらった。ありがとうございました」と感謝の言葉も述べました。

* *



この日は、松田学長退任を記念した一連の行事行われました。アカデミックカフェに先立ち、松田学長は、改修が済んだ自然科学棟屋上の天文台を視察し、16年ぶりに取り替えられた天体望遠鏡のお披露目に参加、退任記念に寄贈した桜の木の植樹を附属図書館前で行うなど、奔走。さらに、講演後に第一福利施設のHANDSで送別会が開かれ、学生・教職員の有志、地域連携の関係者など約70人が集い、松田学長の愛教大での37年にわたる労をねぎらい、杯を手に2時間にわたってにぎやかに歓談しました。



松田正久学長・折出健二理事の退任セレモニー(3/31)



任期を終え、退任を迎えた松田正久学長と折出健二理事(総務担当)の退任セレモニーが、3月31日(月)午後4時から、本部棟玄関前で行われました。

松田学長、折出理事が姿を現すと、集まった教職員、学生から拍手が沸き、秘書広報課の職員から花束が贈られました。松田学長は、別れを惜しみ新たな旅立ちを告げる漢詩を披露しながら、「37



交わして回りました。

公用車に乗り込んでも笑顔で大きく手を振り、本学を後にしました。

年間お世話になった大好きな愛教大。これからも地域での存在感のある大学として、皆さんで盛り上げていってください」、折出理事は「長い間お世話になりました。今後の大学の発展を応援しています」とそれぞれ、あいさつし、耐震改修で新しくなった建物をバックに記念撮影、見守る教職員一人ひとりと握手や言葉を



お知らせ・報告・投稿

2013 年度外国人留学生卒業・修了懇談会(報告)

2月26日(水)に、2013年度で本学を卒業・修了する留学生を祝賀する懇談会が、大学会館ロビーで開催されました。竹原裕同窓会長をはじめ、本学の国際交流活動に支援をいただいている愛知県地域振興部、刈谷市国際交流協会、知立市国際交流協会、アイシン精機株式会社、株式会社サンスタッフ、留学生が居住するアパートの家主の方々を来賓として招き、学内関係者を含め約70人が参加する盛会となりました。



来賓の方々から寄せられた暖かい歓送の言葉を受け、修了生代表としてミャンマーの教員研修留学生 Saw Thura Myo Aung(ソ トウラ ミョ アウ)さんがあいさつ。留学中に受けた多くの支援に対する深い感謝とともに新しい生活へ向けての力強い決意が述べられました。

2013年度は、35人の留学生が卒業・修了。進路はさまざまですが、本学で学んだ成果を十分に活かし、それぞれの道で活躍することが期待されます。

(教育創造開発機構運営課 伊藤 英作)

附属高等学校グローバル語り部講演会(報告)

附属高等学校の「グローバル語り部講演会」が第1回本校卒業生である 河合透氏(一般財団法人石油開発情報センター)を講師に3月7日(金)午後、講堂で行われました。

テーマは、「石油を求め、灼熱の砂漠から厳寒のフィヨルドへ」で、中東と北欧を中心とした長い海外経験を通じて感じたことを、エピソードや写真を交えてご講演いただきました。

中でも、コミュニケーション手段としての英語は、使いながら慣れることが重要で、異文化との交流場面では、自分の考えをしっかりと持ちながらも相手を尊重し、多様性を認める必要性が強調されました。また、石油ができるまでの説明があり、有限である石油資源を大切に使用するには柔軟な発想が大切であり、新た



なエネルギー源を開拓することが現代社会に生きる我々にとって重要な課題であると締めくくられました。

その後の質疑応答では、「附属高校生の頃、今の自分の姿を描いていたか」といった質問もあり、後輩に寄せる熱い思いを時にはユーモアを交えながら伝えていただきました。

海外の第一線で活躍する先輩からのお話は、同じ学舎で学ぶ在校生にとって大きな刺激となりました。

なお、この事業は、文部科学省の「グローバル語り部派遣事業」の一つとして開催されました。

催しもの案内

◆能楽部展示

4月1日（火）～25日（金）

附属図書館アイ スペース

能舞台の写真パネルや能面の展示。

23日（水）12：40～13：00に、仕舞いの実演が行われる。

問い合わせ：附属図書館 TEL 0 5 6 6 ・ 2 6 ・ 2 6 8 8

◆愛知教育大学天文台 第91回一般公開

4月19日（土）18：00～20：00 事前予約不要、参加無料

自然科学棟5階 地学538教室, 屋上天文台

18：00～ミニ講座「夕日はなぜ赤い・空はなぜ青い」講師：澤武文特別教授

19：00～20：30 観望会「新60cm望遠鏡による木星観望会」

19：00～新システム・3D映像上映会「新システム・3D宇宙の旅」（複数回）

問い合わせ：理科教育講座天文学研究室

TEL 0 5 6 6 ・ 2 6 ・ 2 6 2 4

E-mail : tsawa@aecc.aichi-edu.ac.jp

ホームページ : <http://tenmon.phyas.aichi-edu.ac.jp/koukai.html>

編集後記

退任に当たって

読者の皆様。このニュースは80号を以て退任となります。長い間AUEニュース、そしてその前身の「AUE Monthly」をお読みいただきまして、誠にありがとうございます。心より感謝申し上げます。

*

「NEWS」とは、その英語文字の通り、東西南北あらゆるところでの出来事をキャッチして、広くお知らせする媒体です。わが広報チームも、学内外を問わず、大学の係わる行事、本学教員の研究成果の展示や学界受賞の活躍、学長が参画する国際交流のイベント、文化系・スポーツ系を問わず活躍するクラブ・部の様子を取材するなど、まさに広報のイロハを懸命に支えてきました。

いまや国立大学法人としての本学の活動は多面的で多角的になっており、このニュースは月2回の発行とはいえ、大学からの発信としては重要な広報ツールとなっています。あるメディアの方からは、「文字が多すぎる」「もっと写真を増やして視覚的に分かりやすく」との感想もいただきました。そのための工夫は心掛けて参りましたが、やはり、個々の出来事を丁寧に説明し、その活動の文脈を刻んでいくためには、ある程度の長さの説明文がどうしても必要でした。

毎号の文章校正をさせていただく中で、事実を踏まえた言葉は力を持つことを知ると同時に、それが伝わるように言葉を選ぶことのむずかしさも痛感しました。しかも、ニュースの言葉は、読み手からの何らかの応答があってそのニュース性を増します。この最後の受け手からの「こだま」の部分がまったくなかったら、数々の記事は執筆者のモノローグで終わってしまいます。

次々と大学改革に係わるいろいろの取り組み事案が国から示され、それを追うので精一杯でと

もすると学内のあらゆる局面で、まさに現場の人々が寡黙になりがちです。

そうではなく、今こそコミュニケーションを活発にして、大小さまざまな場面でのダイアログを生み出していくときです。これが結局は、大学活性化の「底力」となります。

どうか皆様、新たなツールに変わりましたが、本学広報の発信するニュースをお読みいただき、「こだま」を返してください。また、皆様の方からも、身近に起きた愛教大らしさを伝える出来事を広報の担当者にお寄せください。

長い「後記」となりましたが、以上で責任者としてのごあいさつとさせていただきます。誠にありがとうございました。
(前総務担当理事 折出健二)

AUE Newsをご愛読いただきまして、ありがとうございました。今後は大学ホームページのリニューアルに伴い、「News & Topics」として、学内ニュースを随時掲載していくスタイルに変わります。投稿はこれまで通り、秘書広報課にお寄せいただければ、編集作業を経て、体裁が整い次第、順次掲載します。これからも、多くの寄稿をお待ちしています。

この件についての問い合わせ：秘書広報課 小林

TEL 0566・26・2738

E-mail: nkobayashi@office.aichi-edu.ac.jp

投稿のお願い

学内外の出来事(教育・研究・地域連携・国際交流・学内事業など)に関するニュースの提供をお待ちしております。

メール: kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp 編集責任者・秘書広報課